

# 第1章 ● 水俣病について

## ■水俣病とは

水俣病は、工場などから環境中に排出されたメチル水銀化合物が魚などに蓄積され、この汚染された魚などを食べることで起きる中毒性の神経系の病気です。また、妊娠中の母親が汚染された魚などを食べることによって、胎盤を経由して胎児がメチル水銀中毒になり、脳性小児麻痺に似た障害をもって生まれる胎児性水俣病があります。空気や食物を通じてうつる伝染病ではなく遺伝することはありません。

熊本県水俣湾周辺で昭和31年(1956)に初めてその発生が確認されました。環境汚染により引き起こされた健康被害である水俣病と自然環境の破壊は、その被害の大きさと計り知れない影響の深刻さにおいて、人類の歴史上これまで類例がない公害とされています。昭和40年(1965)には、新潟県でも発生しました。

## ■水俣病の症状

水俣病の主要な症状としては、手足の感覚障害（しびれ）、運動失調（秩序だった手足の運動ができない）、求心性視野狭窄（目が見える範囲がせまくなる）、聴力障害（耳が聞こえにくい）、平衡機能障害（身体の均衡を保つ働きに障害がでる）、言語障害（言葉がもつれる、はっきりしない）、振戦（手足の震え）、眼球運動障害（眼球がなめらかに動かない）などの症状があげられます。

その自覚症状として頭痛や疲れやすい、においや味がわかりにくいなど他の病気と区別がつきにくい症状がみられる場合もあります。

### <注釈>

水俣湾周辺で発生した初期には主要症状が揃った患者が多く、発病後3ヶ月以内に16例が死亡するなど、死亡率は昭和40年(1965)に44.3%もありました。後には主要症状の揃わない不全型や軽症の患者が多数確認されています。

## ■水俣病の治療

水俣病の治療法は、早い時期には、体内のメチル水銀を薬剤により排泄させようとする原因療法があります。しかし水俣病の根本的な治療法は今のところ見いだされておらず、一時的な痛み止め（対症療法）やリハビリ（機能回復訓練療法）が主な治療になっています。

